

〔資料説明（推薦）〕

中尾松泉堂書店創業百周年記念古典籍展示即売会に出品された、目録番号 228 「懷徳堂関係書一括」は、懷徳堂研究にとって有益な資料を数多く含む貴重な書物群である。中尾松泉堂によれば、中井木菟麻呂旧蔵の書物を医師で漢学者の大田蘆隠が譲り受け、蘆隠関係者から松泉堂に入ったものと伝えられているという。資料の多くには蘆隠の蔵書印が押され、一本には木菟麻呂の名刺も挟まれていることから、この伝来も信じてよいと考えられる。

目録写真下段中央に見える「伊呂波分和訓」と見えるものは、「五井持軒先生遺書」とあるが、外題に「和語集解」とある。これは、『国書総目録』等で、現存がなく「*大阪名家著述目録・国学者伝記集成等による。」となっているものであると見られる。木菟麻呂の名刺が挟まれているのは本書である。目録写真に署名の見える今西正立の祖父に蘭州から贈られたものとの識語もある。五井蘭州の父である五井持軒の著書として、『国書総目録』では、この「和語集解」を含めて4点あるが、現存本が確認できるのは、「五井持軒和歌遺稿」「神道遺書」のみである。懷徳堂文庫では、五井持軒のものは、五井持軒・三宅石庵講を筆録したという「論語聞書」のみのようであり、これを入手する意義は十分にある。

また、「五井持軒先生神道遺書」が、目録写真上段左方に見えるが、これは、大阪府立中之島図書館本のみが『国書総目録』に記されており、これとの比較が望まれるところである。

目録写真上段右方の「東遊紀行」も、同名書が多いものだが、大阪府立中之島図書館のみが蔵する中井履軒の著作である可能性が高い。

上段左から三冊目に『何世語』と見えるのは加藤景範の『いつのよがたり』の異本と見られ、加藤景範研究者の天野聡一氏（九州産業大学）が驚く新出資料である。

他にも重要かつ稀少な資料が少なくないと考えられる。伝来の筋のよい、これだけのまとまった懷徳堂関係資料が出現することは、数十年に一度あるかないかと思われ、是非本記念会が購入すべきだと考える。

〔文責：飯倉洋一理事 岡島昭浩理事〕